

ビブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集 図書委員会 ビブリア編集部
平成 7年 2月 20日

福島高専図書館報 第78号

巻頭言

年来の愛読書の1つであるマンガについてマンガ論でも展開しようとも思ったが、わずか800字ではとてもまとめきれないので、専門に関する経験の1つを書くことにする。

私の場合これは嫌いだ、これは絶対手をつけないぞと考えた事は必ずその後で勉強しなければならない羽目に陥るという厄介なジंकスがある。大学時代は工学部に所属したがむしろ物理的な事柄に興味があり、プラズマ物理核融合に関する研究室を選んだ。ところがここは実験系の研究室であり、装置を自作するためにはまず電子回路に関する知識と腕が要求されたのであった。当時の私は回路に関してはまったくの素人であり、上に述べた事の第1回目の経験をする事になったわけである。

次は高専に移ってきてからの事になる。もう約10年程前になるが、当時ICやマイクロエレクトロニクス関係の技術が急速に発達し、これを是非とも本校に取り入れる必要が生じた。前に書いたとおり私の専門はプラズマであり、ICは全くの素人で

ある。この時は某大学の研究室に行き1週間程でICを試作させてもらったが、後は研究室の学生と共に苦勞しつつ勉強と製作実験を行った。この時が第2の経験である。そして現在私は第3回目を経験中である。以前これに手をつけるとめんどうであるから絶対に手をつけるまいと思っていたCPUについて現在研究室の学生と共に取り組んでいる。

新しいテーマに取り組んだ時の秘訣は本当に自分は何も知らないのだと思い、気取りを捨てることだ。これを実行するとほんの少しでも解るとものすごく嬉しくなり、また先へ進む勇気が湧いてくる。知識量があるレベルを越えると、一気に殆ど全てが見通せたと思える時期が必ず来る。この時の喜びは大変大きく、私などこれを目指して勉強を継続している様なものである。

学生諸君！テーマを決めて今日この時より最初のスタートを切っては如何ですか。最大の武器は案内書～専門書に関する文献読みと思考ですぞ。

《電気工学科教官 奈良 和久》

目次

巻頭言	奈良和久	・・・1	アンケート	・・・9
在校生に薦める本		・・・2	図書館だより	・・・10
私の推す一冊		・・・5	お知らせ	・・・11

在校生に薦める本

《読書、読書1つ、読書が》

機械工学科 5年 箱崎 栄一

最近読んで面白かった本と言えば、毛利衛著『宇宙実験レポート from U.S.A』だろう。エンデバーの中での実験や出来事以外にも、宇宙へ行く為の訓練、検査に関する話は大変に興味深い。中でも宇宙と地上とでのデータ比較で、三時間ごとに尿を百cc以上出す必要があるとは知らなかった（七日間ずっとではないだろうが）。実験の中には、浮遊帯域溶接法を用いた大形・高純度のInSb単結晶をつくる実験、宇宙で半導体や新材料の結晶をつくる際に問題となるマランゴニ対流の実験など、高専生（特に機械科）なら見逃せない様なものもある。この本は読むべきだ。巻末には毛利博士の経歴が載っており、彼が真の文武両道の男とわかる。

『イギリスの怪奇民話』出口保夫著も良かった。イギリスは古い国で、風土的にも亡霊や怪物の話が多い。具体的に言えば、冬は日本では想像もできないほど天気の良い日が続く、暗くて陰気で、湿気が多く寒い。今日のように文明の進んでいなくなった中世や近世では、冬の生活は厳しいものであり、化物の話なども生まれ易かったのであろう。「幽霊なんていねえ！」と言う人も、別に信じなくていいから、昔のイギリス人がこんな化物がいるのだと考えた理由を想像しつつ、この異国情緒あふれる本を楽しんでほしいものだ。

最後に、SF小説好きの人には、『ジャグラー』山田正紀著を薦める。かなり読みごたえがある。一読を。

《この本はいいぞ!》

機械工学科 5年 郡司 優一

空を自由に飛び回りたい。その一心で人間は飛行機を造った。私も飛んでみたいと思うが、そう簡単には実現出来ないで、某セガワールドに行ってエアコンバットやらエアウォリア等のフライトシュミレーターゲームをやりまくっているわけです。

そもそも空気より重い飛行機がなぜ飛べるのだろうか。飛ぶのは当たり前だが、疑問に思う人も中にはいるでしょう。少なくとも私は疑問に思っていました。

最近その疑問に答えてくれる本を発見しました。航空宇宙学会会長である加藤寛一郎氏著「隠された飛行の秘術」と言う本です。とは言っても3日前に買ったばかりでまだ百頁も読んでませんが、すごくおもしろい。

変化球について書いてある部分がありますが、回転をかけるとどんな原理で変化するのかというような事は全く知りませんでした。その原理は本をよんで頂ければ分かります。この本は流体力学を知らない人が読んでも、興味のある人ならば大丈夫だと思います。

最初に空を自由に飛び回りたいと書いたが、最初にそう思ったのはいつだったか。多分、小学生の頃F-15戦闘機を見てカッコイイと思った時だろう。それ以来、自由に飛ぶという事に憧れたのだと思う。

最後に零式艦上戦闘機即ち零戦は、「ゼロせん」と読むのか「れいせん」と読むのか、どっちなのだろうか？

《お薦めの「ぼくら」シリーズ》

電気工学科 5年 秋元 靖幸

自分が在校生達に薦めたい本は、宗田理氏の『ぼくらの七日間戦争』に代表される「ぼくら」シリーズである。映画化もされている作品なので知っている人もいるとは思いますが、原作の方はシリーズで17作を数えるベスト

セラーの一つと言ってもいいと思う。何が良いのかと言うと、登場人物の会話だけで物語が進んで行くということと、その時の社会的な批判等を物語のテーマに置いていることだろう。例えば『ぼくらの七日間戦争』では、校則や体罰等の学校教育にテーマを置いていると思う。

このシリーズは、初め主人公達が中学1年生だったが、巻を重ねるにつれて成長していき、今では高校2年生(3年生かも)になっている。主なメンバーも七日間戦争の頃から変わっていないのである。「ぼくら」シリーズは、自分達が出来ないようなとんでもないことを何気なくやっている。例えば、七日間戦争のように、廃工場へ立て籠ったり、悪い大人を懲らしめたりという具合である。

宗田理氏の作品は、どれも子供を主人公にしたものが多い。そのためか、主人公に感情移入がしやすいのである。

最後に、ぜひこのシリーズを読んでもらいたい。この本を読んで何か感じるものがあれば幸いである。

《文句無しに面白い一冊》

電気工学科 5年 佐藤 隆夫

今回、私が推薦する本は、『ゴーマニズム宣言』小林よしのり著、扶桑社発行である。この本は、有名なので知っている人も多いだろう。あの「東大一直線」や「おぼっちゃま君」などの作者よしのりが、自分の身の周りにある様々な不条理に対し、猛烈に怒るといふ本なのだ。

しかし、ただ闇雲に怒るだけではない。著者自身が、自分の考えを前面に押し出して、読者に問題提起するといった真面目な本なのだ。この著者のイメージとはかなりかけ離れているが、こういった作品も書けるのかと感心してしまう。しかもマンガ。

マンガは字ばかりの本にはない強烈なインパクトがあると思う。最初の頃は、2ページ

ぐらいの短いマンガだったのだが、最近は何だか難しい題材で長編のマンガが多くなってきていて、読む方も大変になっている。この単行本を一気に読むには、相当なパワーが必要だと思う。しかも予備知識がないと、何の問題が話題になっているか理解できない。など書いてきたが、文句なしに面白いので一冊読んでみるといいだろう。

この本だけが良い本ではないので、ついでに一冊、『ALL ABOUT ぷよぷよ』も薦めておこう。ぷよファン必携なので、ぷよらーを名乗るなら絶対を買うべきだ!!

《私が本当にお薦めしたいのは...》

工業化学科 5年 大内 宏美

私がお薦めするのは、長野まゆみ著の『少年アリス』という本です。これは、少年「アリス」が友人「蜜蜂」と夜の学校に忍び込み、鳥として孵化できなかつた卵が姿を変えたという少年達の授業を見てしまい、無理やりその中に引き入れられてしまうという、少し不思議な話です。

この「長野まゆみ」という作家の本は、内容は面白いというか、ちよつと変わっているのですが、何よりも情景などの描写の仕方が、とてもすばらしいのです。文字をとってみても、本を開いた瞬間に、眉をひそめてしまうような、難しくて見たこともない漢字が連ねてあるのですが、その文字が何とも美しく見えてしまうのです。そして、「~のように」という比喩が連続していて、イメージの世界がどんどん膨んでいくのです。

この感覚は、一度はまったらやめやれない、かつばえびせんのようなものです。私がこの本をお薦めしたのは、これが著者の代表作だからなのであって、実は本当に薦めたいのは、「長野まゆみ」という作家自身です。この人の本は他にも沢山おもしろいがあるので、一度読んでみたらどうでしょうか。

《『峠』 司馬 遼太郎著》
工業化学科 5年 瀬川 唯

幕末と言えば、勝海舟や西郷隆盛、坂本竜馬といった英雄の名は誰でも聞いた事があると思います。しかし、この本の主人公である河井継之助という人を殆どの人は知らないと思います。僕もこの本を読むまで知りませんでした。

どのような事をした人かというと幕末、雪深い越後長岡藩の一藩士という低い身分から自分の実力によって家老に抜擢され、北越戦争と呼ばれる官軍との戦いで、壮烈に散ったというとてもすごい人です。

幕府が倒れる前からすでに封建制度の崩壊を明確に予想しておきながら、長岡藩を率いてこの戦争を引き起こしました。なぜ、そのような矛盾した行動を起こしたのか、それがこの本ではとても重要な意味をもっています。その理由は長岡藩士として生きなければならないという自己規律による武士道のためでした。

この本を読んで、一般には知られていない幕末の英傑、河井継之助という人の武士とはどのように生きなければならないかといった考え、かつこよさがとてもよく分かりました。もし、暇があつたら一回読んでみたら良いと思います。

《『雨の日には車をみがいて』 五木寛之著》
土木工学科 5年 赤津 洋子

9台の車と9人の女性にまつわる9つの短編集です。シムカ、アルファ・ロメオ・ジュリエッタ・スパイダー、ボルボ 122S、BMW 2000CS、シトロエン 2CV、ジャグラー XJ6、メルツェデス・ベンツ 300SEL6・3、ポルシェ 911S、サーブ 96S。どの車も個性が強く、登場する女性もそれに負けず劣らずです。新しい車を持つたびに、“僕”は女性に出会い、その女性と別れるたびに車を買って替えます。

そして、そのたびに大事な“何か”を失い成長していくのです。

なかでも絶品は、第1話の「たそがれ色のシムカ」です。雨の日だからこそ新品の白のハイヒールをはくという瑤子の「車は雨の日こそみがくんだわ」というセリフが、とても魅力的です。

車には全く興味のなかった私ですが、この作品に出会ってから、つい免許を取ってしまったほど、魅せられてしまいました。それまで見過ごしていた物が、とても愛しく思えたり、読んだ後に不思議な気持ちにさせてくれる本です。何にこだわるかが、その人のセンスなのかもしれません。これを読むと、物の価値観が変わるかもしれませんよ。

《これは必ず読め！！》

土木工学科 5年 佐藤 久志

私は「漫画」をお薦めする。成績が落ちるのを恐れてか、親たちは「漫画ばかり読んでないで・・・」とよく言うが、漫画を読んだせいで勉強ができなくなる訳じゃない。

むしろ少ない時間に集中してやるようになるだろう。とにかく、まわりの人になにを言われても、気にせずどんどん漫画を読んで欲しい。

私がここまで漫画を薦める理由には、まず第1に、読むのがたやすい。次に非現実的である。以上の2つがあげられる。誰でも一度は漫画を読んだことがあるだろうから、初めの理由はわかるだろう。小説を読むとすぐ目が疲れる、眠くなるという人も、漫画を読んでそんなふうにはならなかったはずだ。また、小説は文面から自分の頭で想像しなければならない。しかし、漫画は視覚的に周りの状況が理解できる。こんなところからも読み易いというのが解るだろう。

次に、非現実的だとあげたが、非現実的だからこそ、夢があるのである。この非現実的というのは物理的なことだけではなく、人間

的なことも含まれる。例えば、金、権力にまったく興味を示さず、人間の心を第一とする人間が現実にとどのくらい居るだろう。こんな魅力的な人間が漫画には登場するのだ。

しかし、いくらこんなことを書いても、勉強が出来なくなりそうで不安だという人もいるだろう。そんな人は勉強するための漫画を読み、これはとても理解し易い。

最後におすすめ作品として、『本気』（立原あゆみ）『B・B』（石渡治）をあげる。『LOVE』（石渡治）を土木科のT君が強く推すのでこれも挙げておく。

私の推す一冊

《『Mein Kampf』 Adolf Hitler》
機械工学科 4年 須藤 賢司

その昔、アドルフ・ヒトラーという者がいました。社会の安定は絶対の支配によるのみ可能であり、支配とは不条理を常識化する事である」と。この思想は、我々が属する社会の基本理念である「自由意志の尊重」とは根本的に相容れぬものと思えます。

しかし、現代の「マスメディア」と呼ばれる産業は、その支配階層に在る人々が、マスメディアを介し、自らの手で常識を構築する事で、ヒトラーの思想を忠実に再現し、「絶対の支配」を行使しています。このような支配を「受けるか」、「受けないか」それを選択するのは個々人の「自由」です。重要なのはそれらを自らの意志で選択することです。「道」を選ぶには、自分自身が何処に存在するのかを知る必要があります。

そこで私が推薦する本は、彼A・ヒトラーの著書『我が闘争』。この本には、彼の民衆観、思想統制の方法論等が述べられています。彼の民衆観たるや、本文より「民衆は家畜だ、考えなしだ、奴隷だ、社会の最小構成物だ」

等等など、実に見事に現代日本人の特性を捉えています。

最近、これに反抗をする人達がありますが、「反抗」は、「同調」と本質的に同質です。もしあなたが将来歩むべき道の答えが、「賢明なる愚者」か、或は「愚かなる賢人」か、それを少しでも知る為にこの本を読んでみては如何でしょう。

誤解なさらぬよう、最後に一言、この本を「読む」か「読まか」、この文章を「冗談」と取るか、それとも「事実」と取るか、それもあなたの「自由」なのです。

《歴史小説を読んで見る》

電気工学科 4年 野地 智彦

歴史を勉強したての頃は、参考書を読むよりは、小説などを読むほうがすんなりと入り込めると思う。参考書を読めば勉強になるのは間違いないけれど、どうしても初めの頃は読みずらく、最後には、飽きてそのままになってしまう人が多いはずである。小説を読むと、参考書などを読むよりは、面白く歴史の大まかな概要がつかめると思う。

小説は、作者が作り出した話が多いけれども、物語状に書かれていたほうが、読者は、読みやすくおもしろいと思う。参考書を読むのは、小説を読んでみてからでも良いのではないだろうか。

そこで次に、歴史小説として、おもしろいと思う物をあげてみたい。吉川英治の「三国志」、「徳川家康」なども確かにおもしろいけれど、私は、田中芳樹の書く古代中国物などを推薦してみたい。田中芳樹の書く小説は、その時代の事柄を第三者的な観点から書いている物が多く、彼自身の歴史観を随所に織り込んでいく。また、登場人物の設定もしっかりしていて、各人が魅力的で、個性的だと思う。一度、読んで見てはどうだろう。

《『沈黙の教室』 折原 一著》
(ハヤカ・ミステリ・ワールド)

工業化学科 3年 酒井 友子
連合赤軍事件の記憶も新しい1973年、青葉ヶ丘中学の3年A組では悪質なじめが横行していた。不気味な”恐怖新聞”が発行され、肅清の対象とされた犠牲者は残酷な結末へと突き落とされていった。そんなクラスを受け持った新任教師。彼も”恐怖新聞”の犠牲者になり一生を狂わせてしまう。

その20年後、クラス会の告知が新聞に載った途端、新たな”恐怖と肅清”が鎌首をもたげる。クラス会で20年前の復讐を計画する男はその計画を実行する前に記憶を失ってしまった。

しかし、別の人間の手によってそれは実行に移されようとしていた。”肅清”によって結ばれる男女。”恐怖新聞”を発行した人物は意外な人で、その人を殺そうとする人物もこれまた意外な人で、どんどん物語の中に引き込まれてしまうのがわかる。

厚さもある。文章もおもしろい。
休日、こんな本に没頭するのもいいと思う。

《赤川次郎のシリーズ物をどうぞ!》

土木工学科 3年 佐川 浩紀

小説というものには、2つの種類があります。一つは考えながら読んで、読み終わった時には何かを悟るものです。もう一つはTVドラマ感覚で読める本で、取っつきやすく、読書という言葉自体に抵抗を感じている人でもすんなりと読み始められるものです。赤川次郎の作品は、確実に後者です。誰でも気楽に読めることでしょう。

活字離れと言われて久しい今、読みたくなるような魅力のある本があまりにも少ないと思います。そんな中で光っているのが「赤川次郎の本」です。

「赤川次郎の本」とはいつでも数がとても

多いので、特にシリーズものを選んで紹介したいと思います。

元祖「幽霊」シリーズ、そしてご存じ「三毛猫ホームズ」、「三姉妹探偵団」、「四字熟語殺人事件」シリーズ。その他、主なものだけでも「夫が泥棒妻が刑事」、「吸血鬼」「マザコン刑事」、「杉原爽香」の各シリーズがあります。

その中で、特に推すシリーズは「四字熟語殺人事件シリーズ」です。これは、警視庁の迷刑事大貫警部が偏見のかたまりのような無茶苦茶な推理をして、その部下の井上刑事が恋人の直子と励ましあい、結局事件を解決し、それを大貫警部がさも自分が解決したかのように振る舞うという話です。大貫警部が実際に自分の上司だったら大変でしょうが、それを読むだけだと、井上刑事には悪いけれども楽しいのです。

大貫警部になるか井上刑事になるかは自由ですが、誰にでも感情移入しやすいのが特徴です。つまり、赤川次郎の作品の中の人物はとて個性的で、人間としての魅力にあふれているのです。それは実際に作品を読んでみるとよくわかります。試しに「東西南北殺人事件」を読んでみてください。

このシリーズは、短編の連作なので、どこから読んでもよく、飽きることはないでしょう。連ドラを見るような軽い気持ちで読んでみてください。

《恐怖の2時間18分》

機械工学科 2年 蛭田 貴弘

「何重もの安全対策が施されている筈の巨大システムで何事故が起きたのか」この本のポイントはこの一文といってもいいだろう。

1979年3月、アメリカのスリーマイル島の原子力発電所で事故があり、周辺住民が避難する騒ぎが起きた。この本では、この事故における原因、人間ドラマについて描いている。

この事故は運転員の経験不足、先入観等が原因と書いているが、確かに何重もの安全設備に確信を持ち、「事故は起こらない」と思い込んでいた、いわゆる先入観だが、それが大事故へつながったわけである。安全設備というものは本当に「安全」なのか。安全というものは管理が厳重であれば保証されるものなのか。必ずしもそんなことはないだろう。

人間は技術に頼りすぎている面が目立つが、それがどういった結果を生み出すのか、また、こういった緊急事態において人間の行動力はどうなるのか、こういったことを踏まえておくと、人間の「安全」に対する先入観も変わってくるのではなかろうか。また、僕たち機械技術者を目指す人間にとっても、こういったことを考えるのは大変重要になってくる。

そういった面からでも、この本を読んでみる価値はあるのではないだろうか。この300頁の中から何かを感じてみてはどうか。絶対に不足を感じたりはしないだろう。是非お薦めしたいと思う。

《ファンタジー小説のススメ》

電気工学科 2年 植 英規

ファンタジーと言う言葉を辞書で引いてみると「空想、幻想」と説明されている。そしてファンタジー小説と聞いて貴方が思い付く言葉と言えば「ウソ、作り話」であろう。全くその通りだ。あんなことは現実には絶対に起こり得ない。有り得ないことだ。そしてそれを読むと言うのは、現実主義の貴方にはとてもばかげたことだろう。そう、それもわかってる。

しかし、ファンタジー小説を、そこら辺の作り話とは、一緒にしないで欲しいと言うのが私の考えだ。完成されたファンタジー小説と言うのは、独自の世界を持っていて、その世界には現実社会とは違った独自の科学常識が確立されている。その歴史的背景、バックストーリーは現実社会のかくやと言うほど

の重みと壮大さがあり、その背景をふまえて読むことにファンタジー小説の面白さがあるのだ。

もちろん、これは私の個人的な考えであって、それを他人に押し付けることはできない。しかし、これを読んで少しでも興味を持った人がいるのならば、ファンタジー小説を読んでみて欲しい。

活字離れと言われる今日この頃、文字を読むことを見つめ直す必要があると思う。そして、その楽しさをファンタジー小説の中に見つけることが出来れば、私としてはとてもうれしいことだ。

(なお、本文に関しての苦情は一切受け付けていませんので、あしからず・・・)

《『アルジャーノンに花束を』を読んで》

工業科学科 1年 岡田 裕美

先日、私はこの本を初めて読みました。きっかけは、感想文を書かなくてはならないからという不純な動機でしたが、読み終えたら無性に皆さんにも読んで欲しくなりました。

この本は、多分SF系統です。具体的な内容は、生まれつき白痴の男の人が、ある研究所の手術によって高い知能を持つというもので、アルジャーノンというのは、主人公の男の人に飼われているねずみです。

アルジャーノンも主人公と共に手術を受け、高い知能を持ちました。手術前、主人公の男の人は、ねずみのアルジャーノン並のIQで何をするにも幼稚な行動をとっていましたが、彼の心は純粹でいるのにも、白痴なのを仕事仲間からかわれても気づかず、友達だと信じていました。

ところが、手術後、高い知能をもつと同時に、物事を計算的に考えられるようになりました。純粹な心は失くし、真実である仲間の心も分かってしまいます。彼は傷つき、苦悩し、しまいにはいつもの友情だったとはいえ、それさえも失うのです。そのあげくに、

元の知能に戻ってしまうという結末ですが、ここで、皆さんにも考えて欲しいことがあります。

騙されていたとしても、友達を信じるのと、騙されていたと真実を自ら悟って友達を失うのと、どっちがいいか選べと聞かれたら、あなたはどちらを選びますか。

そして、この物語の主人公は、最終的にどう考えたと思いますか。この本を1度読んで、友達について、じっくりと考えてみて下さい。

《林真理子著 『言わなきやいいのに』》
土木工学科 1年 豊田 千衣

林真理子著の『言わなきやいいのに』この本は、ぜひお勧めしたいです。

内容は、ギャグっぽくは書かれているのですが、人間の真理（それも人間独特の悪い部分）をかなり鋭く、読んでいるうちに、「こういう事？よくあることじゃないか」とか、あげくのはてには、痛いところを突かれるような思いで「ドキッ」または「ギクッ」とされることばかりです。

書かれている文章といえば、こう堅苦しい、特別な事は一斉なく、どれもありふれた一般生活の中で、いかに人間という生物が高慢ちきで、妬みやすい、しかも我がままな生物であることかを赤裸々に表わされています。

細かく説明すれば、例えば、ある女性が他の美しい女性を見て「性格の悪そうな女」と言った（これはもろ妬みを表していますが）感じの文章が細かい章ごとにかかれています。また、倫理の勉強にもなると思います。

はっきり言って、最初にも書いたとおり、これはギャグで、しかも「ため」にもなりません、なると思います。とにかく、気の向いた人はぜひこの本を買ってみて下さい。そして、「ドキッ」とか「ギクッ」とすることによって自分自身を磨いてみてはいかがですか？

本嫌いの方でも、細かい章ごとに分かれているので、しかもギャグ系なので、楽しく読

めるのではないかと思います。笑いながら有意義な時間を過ごせる、という優れ者です。

《『ガダラの豚』 中島らも著》
(実業之日本社刊)

コミュニケーション情報学科 菅 香奈子

この本のタイトルは、マタイ福音書の中のエピソードからとったものであるとのこと。しかして、一体どんな豚の話なんだろう、と思いつつながら頁を開く。と、そこに出て来るのは豚ではなく、アフリカ呪術の研究をしている一人の民族学者、大生部という男。

彼は研究ですばらしい業績をあげてはいるのだが、その論旨があまりにも並外れたために、大学から研究費をけずられてしまうありさま。そこで彼は本を出し、TVに出、アフリカに研究チームを送るための費用を稼ごうとしていた。

そんな中、大生部を取り巻く人々、ノイローゼ気味の妻と一人息子、スプーン曲げ青年、超能力あばき手品師、怪しげな新興宗教の教祖、大生部を利用し特番を作ろうとするプロデューサー等が入り乱れ、ついには、一家そろってアフリカへ行くことになってしまう。そして、物語は本場アフリカ呪術師との壮絶な戦いへと展開する。ストーリーもよいが、中島らも氏の言葉の呪術も楽しめる。読んでいるうちに魅了され、引き込まれてしまう。本自体に呪術がかけられているような、そんな感覚が味わえるのだ。とにかく、ただものではない一冊なのである。

図書館利用に関するアンケート調査

(1) 図書館を利用する主な目的について

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 本を借りるため | 2. 学習のため |
| 3. レポート作成のため | 4. 雑誌を見るため |
| 5. 試験勉強のため | 6. その他 |

(2) 図書館利用の頻度について

- | | |
|------------|--------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週に1～2度 |
| 3. 月に1～2度 | 4. 定期試験期間のみ |
| 5. 半年に1～2度 | 6. ほとんど利用しない |

(3) 月におよそ何冊の本を読むか

- | | |
|----------|----------|
| 1. 0～1冊 | 2. 2～3冊 |
| 3. 4～5冊 | 4. 5～10冊 |
| 5. 10冊以上 | |

(4) 土曜日開館の制度を利用したことがあるか

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎週 | 2. 月に1～2度 |
| 3. 2カ月に1度 | 4. 3カ月に1度 |
| 5. 半年に1度 | 6. 年に1度 |
| 7. 全くない | |

(5) 図書館で本をどのようにして探すか

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. 直接書架を見て | 2. 友人に聞く |
| 3. 図書館員に聞く | 4. カードで検索する |
| 5. コンピューターで検索する | |

(6) コンピューター検索システムを利用したことがあるか

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 必ず利用する | 2. ときどき利用する |
| 3. 全く利用したことがない | (3.の場合はその理由を) |

(7) 貸出制限について (3冊、2週間)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 現状のままでよい | 2. 貸出期間の延長 () |
| 3. 貸出冊数の増加 () | 4. その他 |

(8) 図書館でビデオを利用したことがあるか

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 週に1～2度 | 2. 月に1～2度 |
| 3. 3カ月に1～2度 | 4. 半年に1～2度 |
| 5. 年に1～2度 | 6. 全くない |

(9) 雑誌コーナーで普段良く見る雑誌を3つ挙げて下さい

1. () 2. () 3. ()

(10) 図書館に対する希望が何かありましたら書いて下さい

図書委員会では全学生を対象に上記の図書館利用に関する調査を実施しました。回収率は95%で、各クラスから寄せられたアンケートの集計結果は次のとおりです。

まず初めに、図書館利用の主な目的ですがレポート作成が50%、雑誌を見るが39.4%、本を借りるため37.8%、それから、学習のための14.5%が続いています。

次に利用頻度ですが、最も多かったものは週に1～2度40.9%、月に1～2度27.9%、そして、ほとんど毎日が7.5%でした。

月平均で本を何冊読むか、という項目では0～1冊39.2%、2～3冊28.5%、4～5冊9.3%、5～10冊5.4%、10冊以上10.5%というデータが集計されました。

土曜日の利用については、全く利用しないが20.5%、年に1度26.8%、半年に1度10.3%、3カ月に1度10.3%、月に1～2度12.8%そして、ほとんど毎週利用が5.3%と続き、あまり多いとは言えませんが、土曜が

休日であることを考慮すると、開館の意義があるものと理解すべきかも知れません。

図書館でどのようにして本を探すかでは、直接書架を見てが77.5%、コンピューター検索11.4%、カード検索2.0%となりました。

また、コンピューター検索を全く利用したことがないと答えたのが57.5%でした。主な理由は、(1)利用方法を知らない (2)面倒だから (3)書架を見た方が早かったです。

貸出制限については、現状のままでよいが64.1%、期間延長を望むが26.5%でした。

ビデオの利用に関しては、全くない22.8%で、半年に1～2度35.1%、3ヶ月に1～2度7.6%、月に1～2度8.1%、週に1～2度が2.2%となっています。

最後に、雑誌人気ベスト5は、(1)CDで一た (2)I W A K I (タウン情報誌) (3)ムー (4)スクリーン (5)ニュートンで、次にサッカー、テニス、バスケット等の様々なスポーツ誌が続くという結果でした。

図書館だより

☆ クラス別図書帯出冊数 (平成6年 4月～12月)

	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	6	74	541	295	199	1115
電気工学科	117	112	307	245	516	1297
工業化学科	123	280	580	387	268	1638
土木工学科	23	197	483	59	216	978
コミ・情科	420					420
計	689	663	1911	986	1199	5448

☆ 図書別貸出回数ベスト10 (平成6年 4月～12月)

1	土木材料実験	国分正胤編
2	化学大辞典	
3	たいのおかしら	さくらももこ著
4	ニューロコンピュータ入門と演習	
4	基礎からの物理	力武常次ほか著
6	化学工学実験	東畑平一郎著
7	鑄造	山内一彦著
8	化学・英和用語集	原正ほか編
9	24人のミリー・ピリカン	ダニエル・キイス著
10	マーフィーの法則	アーサー・ブロック著

☆ 個人別貸出冊数ベスト10 (平成6年 4月～12月)

1	加古 晶	(3M)	142冊	6	守岡 宗典	(4M)	48冊
2	野地 智彦	(4E)	57冊	6	服部 直明	(1C)	48冊
3	高橋 淳	(5E)	56冊	8	小松 留美	(3土)	45冊
4	赤津 洋子	(5土)	55冊	9	西村 睦子	(3C)	39冊
5	松野 佳隆	(5E)	50冊	10	今野有紀子	(2C)	38冊

☆☆ **学年末休業特別貸出について** ☆☆

下記の通り実施致します。

特別貸出開始	・・・	平成7年3月 6日 (月)
貸出限度冊数	・・・	1人5冊まで
返却期限	・・・	平成7年4月12日 (水)

- ◎ 現在帯出している図書で引続き必要な場合は、カウンターで継続手続きを行うこと。また、1人で長期間独占しないよう期日には必ず返却してください。

学年末休業期間中は、

[平成7年3月14日 (火) ~平成7年4月6日 (木)]

閉館いたします。

☆☆ **5年生全員へのお知らせ** ☆☆

**帯出図書・卒業研究用帯出図書を
2月24日 (金) までに
返却して下さい。**

- ◎ 期日までに返納できない場合は、その旨を図書係に連絡して下さい。なお、連絡がないときは、保護者あるいは保証人宛に督促状を発送する予定です。

図書館長

平成6年度図書委員会

図書館長 渡辺洋太郎 (一般教科)
副館長 (ビブリア担当) 西山 公紀 (一般教科)

委員	佐藤 憲男	(機械工学科)	奈良 和久	(電気工学科)
	高橋 辰男	(工業化学科)	土居 威男	(土木工学科)
	赤松 一良	(庶務課長)	若松 芳男	(図書係長)
	浅川 春美	(管理主任)	大谷 敦子	(司 書)

学生委員

5 M	稲川 哲夫	5 E	佐藤 貴弘	* 5 C	柴田 公彦	5 土	赤津 洋子
					大内 宏美		
4 M	鈴木 和男	4 E	鈴木 貴弘	4 C	佐藤 香	* 4 土	加藤 好教
3 M	森 俊介	3 E	山田 寛章	* 3 C	酒井 友子	3 土	松園 千加子
	松崎 俊介		村上 俊幸		吉田 寿江		荒 さより
2 M	高木 一幸	2 E	大高 裕幸	* 2 C	高木 厚志	2 土	渋谷 健二
	蛭田 貴弘		植 英規		加藤 誠一		氣仙 淳
1 M	斎藤 雄一	1 E	渡辺 剛史	1 C	遠藤有希子	1 土	小松 律子
	佐藤 利幸		江尻 育美		岡田 裕美		豊田 千衣
1 コ	薄井亜希子						
	* 菅 香奈子						

(* 印はビブリア編集委員)

編集後記

☆後期になり図書委員会では全クラスを対象に『図書館利用に関するアンケート調査』を実施しましたが、その結果について一部お知らせします。また、今回特にアンケート結果の集計に積極的に協力してくれた4 MのS君をはじめ沢山方々に感謝したいと思います。

☆購入希望の図書がありましたら、最寄りの図書委員を通じてか、あるいは直接図書係に申し込んで下さい。